

第4回富良野地区定住自立圏共生ビジョン懇談会 議案顛末

日時:平成27年11月27日(金)
午後6時00分～午後7時00分
場所:富良野市役所 大会議室

1. 開 会

(入交企画振興係長)

2. あいさつ

(若杉総務部長)

3. 委員紹介

4. 座長及び副座長の選出

・座 長～ 佐々木 賢一 委員

・副座長～ 丸山 一敏 委員

5. 議 題

(1) 富良野地区定住自立圏共生ビジョン事業取り組み状況について

＝資料1＝ 事務局より説明

＝資料2＝ 事務局より説明

(2) 各委員からの意見

(委員)

海外からの観光客が増える中で語学を身につけられるような場をつくれな

(委員)

中富良野単独でもサイクリングイベントを平成28年度に企画している。圏域でのイベントにも参加していきたいし、整備事業の推進をおねがしたい。

(委員)

平成26年度の主な事業を数字で示していただき、圏域でどんな取り組みがあるのか理解が深まった。今後も事業の継続的な推進をお願いしたい。

(委員)

既存事業の更なる連携と認識している。実績として効果が上がっているとわかった。サイクリングロードについて、美瑛～富良野までは整備されているが、南富良野や占冠まで整備がすすむように要望したい。

(委員)

医大生への補助などは進めているが、医師の高齢化が深刻になっている。10年後には学生も育ってくると思うが、3年後4年後の医療を確保するための対策は考えられないか。地域医療の確保にむけた新しい事業展開について、要望したい。

(事務局)

即答できる状況ではないが特に産科婦人科の確保など、地域医療の確保が重要だと言われている。地方創生の議論のなかでも子育て施策が重要視されている。現在、医師確保のための奨学金免除の取り組みもすすめているが、介護人材も含めて医療・福祉の人材確保をするための施策について意見として受け止める。

(委員)

今、奨学金をもらっている学生が医療現場に来たとしても、すぐに一人前になるわけではないので、直近の医師不足を解消できるような措置を検討願いたい。

(委員)

保育所の広域入所について住民の理解は深まっているのか。自分の街の保育所にしか入所できないと思っているのではないか。

また、さらなる広域入所の連携に向けては、富良野市では0歳児などの待機児童がいると聞いている。富良野市と中富良野、中富良野と上富良野といった町同士の連携、行政同士で連携できる面がないか検討してほしい。

(委員)

圏域連携事業と地方創生の交付金の関係性について伺いたい。

(事務局)

定住自立圏共生ビジョンについては、富良野市が中心市となり、上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村が連携町村となります。圏域での連携事業をすすめるうえで、各市町村に対して特別交付税が措置される制度となっている。交付税の内容としましては、中心市の上限額が8,000万円、連携町村の上限額が1,500万円となっている。

(委員)

富良野市においては若年女性の市外流出が深刻だと考えている。女性が流出するという事は、その両親も町から出て行ってしまう傾向にあり、加速度的に人口減少がすすむと考えられる。そこで、女性を対象とした研修を企画し雇用につながるよう事業の検討をしている。また、通年雇用にむけては特に経営者の意識改革も重要と考えています。今までは、働く人は使い捨て、季節雇用・短期雇用がすすんでいたことで、全体的な就業者が減っている。人を大事にしなければ育っていかない現状がある。働く人を教育・研修するだけでなく、雇用する側の意識改革をする必要があると考えている。

観光に関連して、観光事業者だけが語学の研修をするということではなくて、住民全体がおもてなしの心を持つ意味でも語学研修が必要だと考える。

(委員)

市町村ごとの決算額はわかったが、事業費の使途や効果あったのか無かったのかが資料からは読み取れない。このお金がどのように役立ったのか詳細を知りたい。

この会議で新たな発想で事業を組み立てるような場ではないのか。既存事業が発展している印象に無い。

(事務局)

共生ビジョンについては、平成26年度の策定時に既存事業のなかで圏域連携している事業を洗い出し、委員のみなさんと策定してきた。今後に向けた新たな事業については、懇談会でいただいた意見をもとに圏域市町村や関係部局と協議し、意見反映や新たな事業

展開を検討していく。

(委員)

ふらびズム協議会では移住・定住者にむけて動画配信している。もともとラジオふらの主体の活動ですので、災害面での協力を圏域で図れないか検討したい。上富良野町と富良野市とは災害時の連携協定を結んでいる。

(座長)

本日出された意見について圏域連携できるようにしていただきたい。

※欠席委員からの意見

(委員)

旭川市にある「カムイの森」や美瑛町にある「bi.yell (ビ・エール)」の様な室内で子供たちが遊べる施設を圏域でつくることはできないか。

6. その他

(事務局)

委員の任期については平成29年3月31日までとなっている。また、各団体で変更がある場合は事務局へ連絡願いたい。また、今後も懇談会の開催を年1回程度予定している。

7. 閉 会

(入交企画振興係長)